農薬について知ろう その4

キッズボックス KIDS BOX

食品安全委員会は、食べ物に残った農薬が「食べる人」に悪い影響を与えないように、「ここまでなら一生涯、毎日食べても大丈夫な量」を決めています。

「ここまでなら一生涯、毎日食べても大丈夫な量」って、どうやって調べているの？

動物等で試験することの例

- 長期間毎日食べても大丈夫な量
- DNA（細胞内にあって生物の遺伝情報を決める物質）に傷をつけないか
- “がん” ができたりしない量
- お腹の中の赤ちゃんの発達に問題がない量

・・・ほかにもいろいろ

↓ 動物試験の結果を人に当てはめることができるかどうかも考える

どの試験でも動物に害が出ない量

↓ ÷100

安全のため、
・動物と人との違い
・個人の違い
などを考えて 100 で割り算する※

人が毎日食べても大丈夫な量

※100 以外で割ることもあります

世界の各国が、同じ考え方でこの量を決めているよ。

まず、農薬メーカーなどがいろいろな種類の試験を行うよ。その結果から、専門家が「どの試験でも動物に害が出ない量」を調べるんだ。

そして、これをさらに 100 で割るんだよ。

ここが大切！

人や動物が大量に食べると毒となる物質であっても、少量であれば影響が見られません。この「量による違い」を生かして、農薬の安全性を確保しています。

実際に食品に残っている農薬の量は「ここまでなら一生涯、毎日食べても大丈夫な量」よりはるかに少ない量です。

農薬など食品中の化学物質の健康への影響を考えるときには、あるかないかではなく、どれくらいの量を口にしたかを考えてみましょう。

量が大切!

キッズボックス「農薬について知ろう」は計 4 回のシリーズ（2021 年 7 月、9 月、2022 年 2 月、3 月）でお届けします。

動物を使った試験ではほかにどんなことを調べているのかな？

調べてみよう キッズボックス 検索

令和 4 年（2022 年）3 月　内閣府食品安全委員会
http://www.fsc.go.jp/kids-box/